

(本社・岡谷市、宮坂友武社長)は二十四日、下諏訪町の諏訪大社下社秋宮で安全大会を開き、労働者の防止や健康を祈願した。従業員と協力業者合わせて約百八十人が出席し、講習会などを通じて気持ち新たにされた。

神楽殿で安全を祈願した。

坂村社長は「事業が減り、小規模化する中、完全施工が求められる。クレームゼロへ一層信頼され、次にステップできる体制をつくっていきたい。健康や安全管理には最善の注意を」とあいさつし、協力業者二社を表彰した。

ト」と題して講演。誤認や行動ミスの防止、リスクの事前評価と許容の可否決定などについて再確認した。(杉田敦)

講習会などを通じて気持ち新たにしたい興和工業の安全大会



興和工業(株)安全大会

研究会
ロボットの
研究者

自律分散システムシンポジウム 諏訪の取り組み発表



ロボットや制御システムの研究者らでつくる社団法人計測自動制御学会自律分散システム部会(代表・喜多一京都大学教授)は二十四日、第二十回自律分散システムシンポジウムを諏訪市の浜の湯で開いた。さまざまな研究発表の一つとして、諏訪地方の関係者によるものづくり、地域づくりに関する発表が行われた。

シンポジウムは大学の研究者、学生、企業関係者など約百人が参加し、諏訪地域の取り組みも発表された自律分散システムシンポジウム

二十五日まで行われる。ロボットや人工知能などに関する発表の中で、「地域システムの再構築—諏訪地域の事例」と題した発表が行われた。

工業デザインなどを手がけるケルビム(諏訪

市)の堀内智樹社長は諏訪地域の中小企業が連携した取り組みを発表。諏訪パーチャル工業団地、インダストリーウェブ研究会などの活動を紹介し、「多様なものづくりは産業化して利益を上げることが難しいが、今後価値創造的なプロジェクトを立ち上げていきたい」と述べた。

また、NPO法人「匠の町しもうさわあきないプロジェクト」の原雅広専務理事は、下諏訪町御田町の商店街活性化を紹介した。ものづくりの改善手法を取り入れるなどした成果が関心を集めていた。

京都大学の喜多教授は自ら会長を務める諏訪産業集積研究センターについて、産学連携の取り組みを報告した。

谷市神明町三、高木文入社長)は二十五日、無担保私債を発行する。受託・引受金融機関は、八十二銀行岡谷支店と商工組合中央金庫岡谷支店で、金額はそれぞれ五千万円。償還期間は七年。資金用途は設備資金(新工場取得資金)。

同社は一九四九年、下諏訪町で創業した。現

れた工場用地を取得し、新工場を建設している。工場集約化と合理化設備の導入で、一貫した生産体制を確立するとともに、無人化、素人化、スピード化など生産の高度化を図る。営業部、生産管理部、生産技術部を新設し、管理体制を強化して自動車関連企業などの要望に応えられる生産・

平均株価263円高

東京株式

二十四日の東京株式市場は、前日の米国株高を受けて過度の不安感が後退したことなどから、ほぼ全面高の展開となり、日経平均株価は大幅続伸した。終値は前日比二六三円七二銭高の一万三〇九二円七八銭だった。

東証一部全銘柄の値動きを示す東証株価指数(TOPIX)も同三四・五二程度上昇の二二八四・四五と大幅続伸。出来高は二六億一千七百九十五万株、売買代金は三兆五百五十五億円だった。

米金融保証専門会社(モノライン)への資本

円106円台前半

東京外為

二十四日の東京外国為替市場の円相場は、国内輸出企業のドル売りなどで小反発した。午後五時現在は一ドル一〇六円三八一三九銭と前日比一五銭の円高・ドル安。

米国の金融不安緩和への期待からドル買いが進

谷支店に隣り、同保証。同社工技術を通じ、素材の性質を揮き加える技術・品質に、地域社目指したい

金・プラチナ

24日の相場(税込)

【種 番】 【国 野】

◆三菱ふた



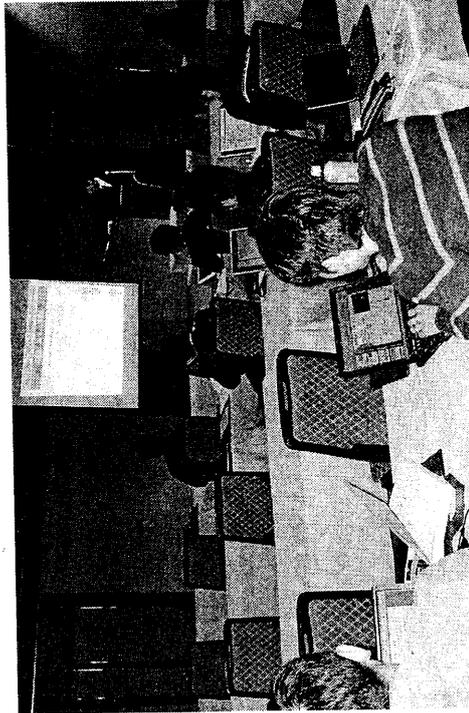
自律分散システム 地域でのあり方提言

全国の研究者 諏訪でシンポ

県内で初開催
ロボットや制御システムなどの研究者らがメンバーとなっている計測自動制御学会システム情報部門による第二十四回自律分散システムシンポジウムが二十四・二十五の両日、全国各地から百人以上が

参加して諏訪市内であった。同シンポが長野県内で開かれるのは初めて。初日は一般セッションに加え、「地域システムの再構築」をテーマにしたセミナーセッションも行われ、地域と

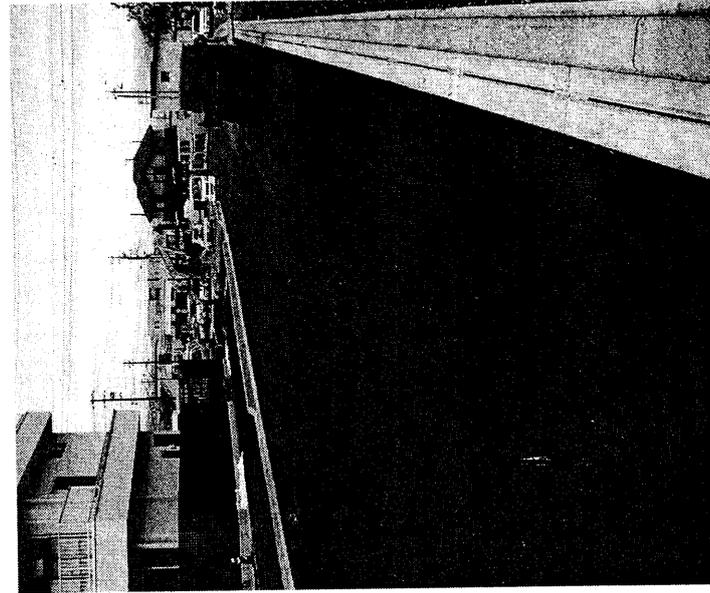
シネスのあり方を模索するシンクタンク、諏訪産業集積研究センターの取り組みも紹介された。呼びかけ人で京大工学部教授、同センター会長の喜多一さんは「諏訪地域は製造業の集積地だが、大学との交流は少ない。技術シーズを製品化するといったものだけでなく、産学連携をもっと広い視野でとらえ、生かしていく取り組みが必要」と強調した。



インフラ
が
増加
拡大
へ
予
防
を

感染症
情

県諏訪保健所の感
症情報によると、十



県諏訪建設事務所が、茅野市のJR茅野駅周辺に整備する都市計画道路三線のうち、六年線は年度内の完成

に向けて工事が進んでいる。同線は、上原の国道20号と茅野町の県道を直線と結ぶ延長三百七

十四。全幅十六メートルにそれぞれ三・五メートルの歩道を設ける。国道側は文字の上原交差点に接続し、交角

五差路となる。県道側はJRの立体交差近くにつながる。平成十八年から工事を進めている。

供用している仲町通り線を含めた都市計画道路三線は、中心市街地の周辺を結ぶ総延長千七百メートル。全幅は十二・七メートル、車道は

あとの上川橋線は、延長三百十四メートルの計画で来年度着工の方向で検討を進めるとしている。

年度内に完成する
見通しの六年線

JR茅野駅周辺の道路整備進む

六年線 年度内完成へ

諏訪建設事務所

興和工業(株)安全大会



安全施行第二に

興和工業が下社で大会

岡谷市田中町、興和工業(宮坂友武代表取締役)は二十四日、安全大会を諏訪大社本社秋宮参集殿で開いた。

同社員と請け会社の関係者約百八十人が出席し、安全施工を第一に心掛けることを確認した。

安全大会では、縣に神楽殿で二年間の事故・無災害を祈願会場を参集殿に移し、大会を開催した。宮代表取締役は「原油高騰で大きく建築費に影響を及ぼしている。より良いものを作り確実に作ることを



宮坂代表取締役が安全第一で完全な施工を呼びかけた

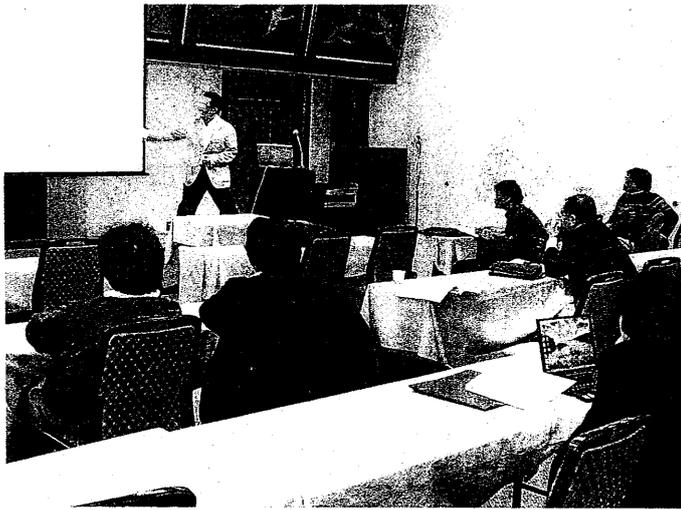
産学連携

諏訪地方の事例発表

計測自動制御学会シンポ

全国のロボット研究者二日は九分科会が開かれ、などをつくる計測自動制御学会(事務局・東京)主催のシンポジウムが二つあった。

十四日、二日間の日程で「地域システムの再構築」を



諏訪地方の産学連携などについて事例発表があった計測自動制御学会のシンポジウム

テーマにした分科会では、大学の研究者が四人

オーロラ研究 最前線を学ぶ

アラスカ研修へ諏訪清陵高

諏訪清陵高校(諏訪市清水)のスーパーサイエンスハイスクール(SHS)コースの二年生二十四人は二十四日、二月に訪れる米国アラスカでのオーロラ観測に向けて、国立極地研究所(東京)の佐藤夏雄副所長(60)の講義を同校で受け、オー

が発表。京大芸術情報メディアセンターの喜多一教授は、自身が会長を務め、諏訪地方の製造業の経営者が参加している「諏訪産業集積研究センター」の取り組みについて説明した。研究者を招

いた講演会の開催に触れ、「企業が(事業展開で)求める人を呼んで育て、持っている知恵を企業と結び付けたい」と話した。

市内で工業デザイン会社を経営する堀内智樹さ

は「諏訪地方の企業は外部委託を進めた結果、十年ほど前に比べ技術者が減っている」と報告。「ものづくりをどう続けていくのか、考えていかないといけない」と訴えていた。



オーロラの写真を見せながら発生の仕組みなどを話す国立極地研究所の佐藤夏雄副所長＝諏訪清陵高校

ロラ研究の最前線について自ら撮影したオーロラの写真や、北極で撮影された写真、動画を見せながら、太陽から飛び出した

で自ら撮影したオーロラの写真や、北極で撮影された写真、動画を見せながら、太陽から飛び出した

た電子が大气中の酸素原子などと衝突して光るオーロラの仕組みを説明。およそ十一年周期で変動する太陽活動の激しい年に当たれば「北海道でも見える」と話した。

最後に「実際に見たオーロラは空一面に広がっていた。その感動をぜひ味わってほしい」と生徒たちに語りかけた。

アラスカでのオーロラ観測などは文部科学省のSHS事業の一環。同コースの二年生が二月五日から六日間、現地を訪れる。激しく動くオーロラを見てみたいという曽根原知宏君(15)は「さらに踏み込んでオーロラの仕組みが分かった」と目を輝かせていた。

下諏訪町大社通り 北側歩道も整備へ

11年度完成めざす

下諏訪町の諏訪大社下社秋宮に続く国道142号(大社通り)で、北側に歩道を整備するための測量が始まっている。二〇〇五年度に完成した南側の歩道(幅四メートル)に続き、並みづく

全中スケートへ 3選手 健闘誓う

富士見 役場訪問

長野市のエムウェーブなどで二月二十五日の日程で開く全国中学校スケート大会に出場する富士見町内の二校のスケート選手三人は、役場を訪問し、健闘を誓った。

三人は、ドスケート、南中学校(15)は、歩いて走り、合計十分。



東北信から